



武田光由議員
(公明党)

子育て支援

問 妊娠から出産・子育てまでの一貫した伴走型相談支援と経済的支援を一体的に行う事業について、具体的には何を行うのか。

答 「健康管理課長」妊娠届出時と出産届出時にそれぞれ5万円を交付するとともに、子育て世代包括支援センターによる伴走型の相談ということ、妊娠届出時、妊娠8か月頃及び出産後に面談とアンケートを行う予定である。

問 「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」の成立に伴う市の対応について伺う。

答 「市長」現在、本市と関係機関による医療的ケア児等支援協議会を設置し、情報共有を行っている。

答 「教育長」就学時健診や教育支援委員会等の開催時に、より適切な就学に向け専門家の意見を踏まえ協議している。

教育・福祉

問 文字の読み書き能力だけに困難を示す障害「ディスレクシア」について、市内小中学校における把握状

況とサポート体制を伺う。

答 「教育長」就学時健診や普段の学習状況等から、各学級0〜2名程度いると把握している。困難を抱える児童生徒に対しては、適切な座席配置、声掛け、平仮名表等の携帯など特性に応じた指導・支援を行っている。

なお、デジタル教科書等での文字の拡大表示、文章の読み上げ等の機能が有効な場合もあることから、必要に応じて活用を図るよう周知していきたい。

問 文部科学省が発出した、学校等における「たんかん発作時の口腔用液「ブコロム」の投与に係る事務連絡」について、学校等への伝達方法を伺う。

答 「教育長」市内小中学校及び幼稚園に文書を出し、周知を図った。今回の通知を受け、子どもの命を守る観点から職員研修や体制整備を含めた更なる周知を図っていききたい。

問 保育所におけるブコロム投与について伺う。

答 「福祉課長」市内保育所等に対して周知した。ブコロムの投与は、あくまでも緊急でやむを得ない場合とされており、生後6か月までの乳児に対し保育士が投与することは想定されていない。市内保育所等で当該行為が必要となる際には、担当医及び保護者と十分に協議を行っていききたい。

感染症対策



内山隼人議員

問 多くの子どもたちが体育の授業や登下校でもマスクを着用している。不要な場面では大人から外していかなければ、マスク離れ出来ないのではないか。厚生労働省のガイドライン「屋外は原則不要、屋内は人との距離が保てて会話をほとんど行わない場合は不要」に沿った運用を行政から示すべきではないか。

答 「市長」厚生労働省リーフレットを活用し、野外や屋内における場面に合わせたマスクの着用の推奨とマスクの必要がない場面について、ホームページにおいて周知を図っている。

答 「生涯学習課長」屋外のウォーキングイベント等、距離が確保でき、会話をほとんど行わない場合は不要と考えている。図書館で本を読んだりする場面についても、距離が確保でき会話をほとんど行わない場合は「不要」と12月2日から周知している。

バイオテクノロジー

問 ゲノム編集食品が2019年10月から「表示義務なし」での流通が認められた。現在、トマト、マダイ、

トラフグの3品が届出されており、知らぬ間に食卓に並んでる可能性が高まっている。これを体内に取り込むことによる長期的な安全性に関する情報は不十分である。さらに開発企業によってゲノム編集トマトの苗が、2022年度に希望する全国の福祉施設へ、2023年度には希望する小学校に無償配布される計画がある。市として受け取るのか。

答 「学校教育課長」教育施設に無償配布する計画を把握しており、市内の学校に届いていないことを確認している。各学校に受け取らないよう周知した。

学校給食

問 匠瑤市の学校給食では、お米は市内産、野菜もなるべく市内産を優先し、地産地消に積極的に取り組んでおり、地元の有機米や有機みそを使用することもある。出汁は天然だし、調味料はなるべく遺伝子組み換えでない原料のもの、パンは国産小麦など、給食に関わってきた職員の努力と子どもたちを思う気持ち、地元の生産者との連携が成し遂げているものであり、市民が誇りを持つため、そして移住PRのためにも給食の食材選定基準(こだわり)を一目で分かるよう明文化してはどうか。

答 「学校教育課長」内容を精査しながら、市民に分かりやすいようホームページへ掲載をしていきたい。